

ふじもと やすはる
藤本 泰治さん

——今回、地域の中心になって取り組まれた藤本さんにお話を伺いました

活動の継続は 雰囲気づくりから

この取り組みを受け入れたきっかけは、農村を活性化させ、次の世代に少ない負担で受け継いでほしいという思いからです。大澤区には現在、19軒しかありません。このまま農家が減り、耕作放棄地が多くなると村が荒廃し、ますます住みづらくなってしまいます。

しかし近年、土山は新名神が開通し、市の玄関口となりました。これを大きな財産とし、受入れを続けることで賑わいのあるまちになればと思っています。

今までの地域活動は、いわば「祭り」のようなものでしたが、今回のツアーは「ビジネス」としてきちっとした対応を心がけて取り組む必要がありました。「しんどいけど、やって良かった」というのが率直な感想です。反省する点もありましたが、それを次に活かしたいと思っています。

すぐに効果が出るものではありませんが、活動を続けることにより、地域で土台を作っていくことが重要だと考えます。また、何か楽しいことをしよう、という雰囲気づくりができれば周囲を巻き込むことができ、賑わいが作り出せると考えます。

今後は、都会の方が自分で作物を育てられる市民農園などを考えています。今、できることを考え、できる範囲で積極的に取り組んでいこうと思っています。

問い合わせ

農業振興課 農政係
☎65-0711 ☎63-4592



▶お茶摘み体験を楽しむ参加者の皆さん



～都市と農村の交流による 元気な町づくり～

グリーン・
ツーリズムとは

甲賀市は古来から、米や茶をはじめとする農業の盛んなまちです。しかし近年、経営の難しさや農産物の価格の低迷などにより、担い手不足や農地の荒廃などが問題となっています。その解決策の一つとして、やりがいのある農業、魅力ある農村をめざし、市では平成23年度から『都市農村交流事業』を開始し、その一環としてグリーン・ツーリズム(GT)などの取り組みを進めています。

GTは、自然志向の家族や団体を受け入れ、自然や地域文化に触れ親しんでもらうもので、市内での例として、土山町鮎河区が、企業などによる田植え体験の受け

交流事業の
促進にあたって

入れや、市内で初めての民泊が実施できる簡易宿所の許可を得られるなど、先進的な取り組みが行われているほか、大澤区でも新たな交流が生まれました。

を占めており、このままでは、ますます農業の担い手不足や荒廃農地の拡大が深刻化すると考えられます。

このような農業の現状を改善するため、市では耕作放棄地の解消対策や地産地消などの取り組みのほか、課題を抱えている地域の活性化を目的に、都市農村交流事業を進めています。

市の農家人口は、15年前までは全体の約3割をしめていました。しかし、10年間で約4分の3に減少し、現在では2割に満たない状況です。これは、米価の下落や、従事者の高齢化などの理由が挙げられます。さらに昨年の農業就業人口を年齢別で見ると、60歳以上の方が約9割

平成21年度から都市側へのニーズ調査や、受入れ体制を整えるために、地域の皆さんを対象にした講習会・実践講座を行うなどの準備を進め、その一環として今回、土山町大澤区でのモデルツアーとして実現しました。

今回のツアーは、市が呼び

かけを行い、県の協力を得て旅行会社によって催行されたものです。

都市農村交流事業

ともに賑わいの
あるまちを

都市住民との交流をすることで、農業以外の収入源の確保、農産物の販売促進効果などの経済的メリットだけでなく、地域の魅力を見直し、やりがいや楽しさを地域の皆さんが共感し合えることができます。

甲賀市だけの魅力は数多くあります。これらに磨きをかけ、活かせることで地域がもっと元気になると考えます。

平成23年度の主な事業について6つの重点テーマを設けています。その中の「地域の資源を活かした元気な産業づくり」の新規事業の一つです。

新名神高速道路の開通に伴う都市部からの交通アクセスの向上を活かして、中山間地域等において地域資源を活用した農業体験などのプログラムを実施するとともに、都市住民と地域住民との交流事業を促進し、甲賀市ならではの事業を展開していく予定です。



▲摘みたてのよもぎを調理する地域の皆さん

モデルツアー「甲賀忍者の里でお茶づくしの一日」開催

5月14日に土山町の大澤で「甲賀忍者の里でお茶づくしの一日」と題した都市農村交流モデルツアーが開催され、おもに京阪神から20代から60代の30名が参加されました。

参加者は茶畑でのお茶摘み体験のほか、お茶の淹れ方講座、近くの田んぼの土手で摘んだよもぎを使つての餅つきなどを体験され、お昼には鹿肉など地元食材を使った昼食を楽しめました。

《参加者の声》

・体験ツアーが好きで各地参加して来ましたが、今回は、茶摘みなど普通では体験できないようなことができ、また、様々な年代の方とふれあうことができて楽しめました。

・幼いころにした農村体験を懐かしく思い参加しました。地域の方達が一体となって私達をもてなして下さった気持ちに伝わり、感激しました。

参加されたほとんどの方が、初めての農作業で豊かな自然の中で快い汗を流し、農村の魅力を満喫されました。



▲地域の方によるおもちつきのお手本

農をいかして元気なまちに